

定期作況報告

平成21年9月
(9月20日現在)

北海道立北見農業試験場

1. 気象経過

8月下旬：最高気温は平年並み、最低気温はやや低く、平均気温はやや低かった。降水量は平年より少なかった(平年比24%)。日照時間は平年並みであった(平年比90%)。

9月上旬：最高気温は平年より低く、最低気温は極めて低く、平均気温は低かった。降水量は平年よりやや少なかった(平年比72%)。日照時間は平年並みであった(平年比104%)。

9月中旬：最高気温は平年並み、最低気温はやや低く、平均気温はやや低かった。降水量は平年よりやや少なかった(平年比79%)。日照時間は平年よりやや多かった(平年比122%)。

以上のことから、この1か月間(8月下旬～9月中旬)は平年と比較して、気温は平年よりやや低く、降水量は平年よりやや少なく、日照時間は平年並みであった。

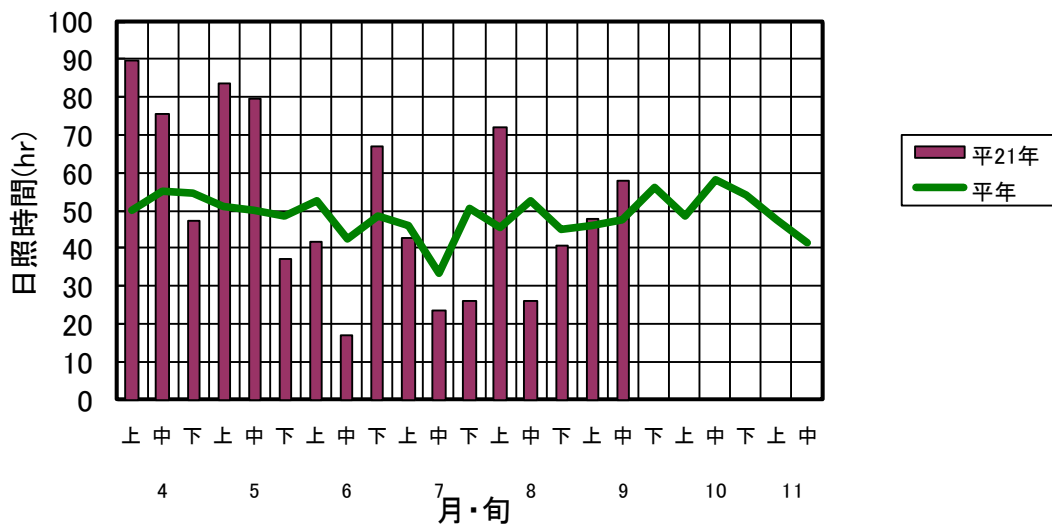
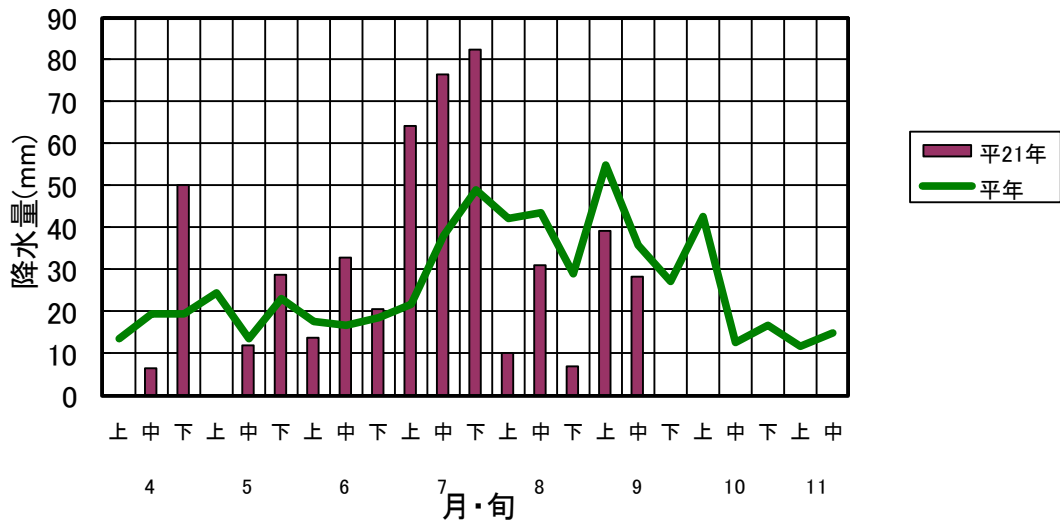
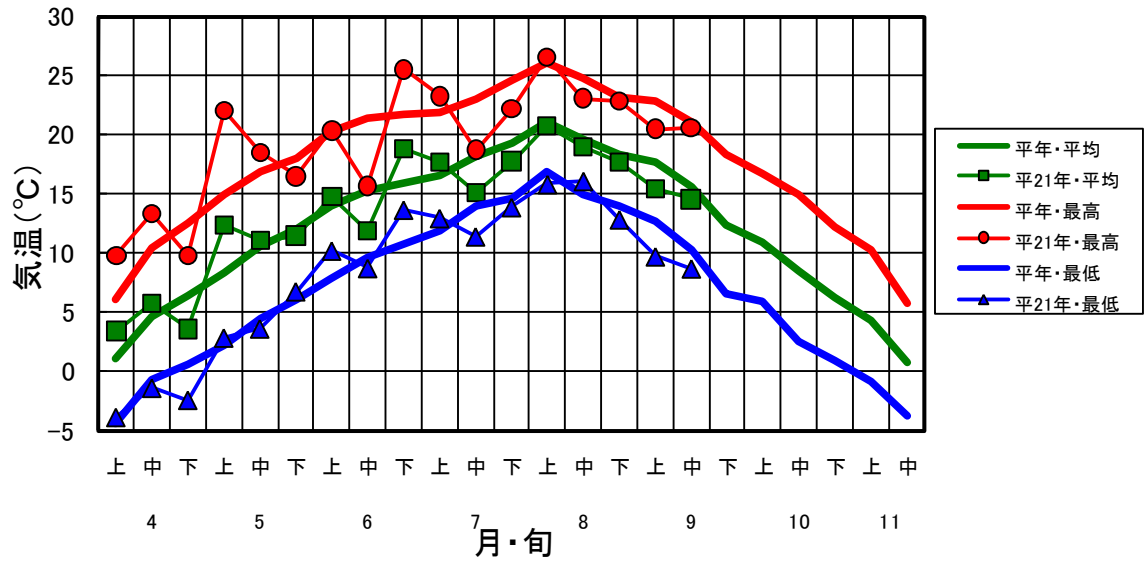
注) 降水量、日照時間についての平年値との比較表現は、各旬における過去10年間の出現値の幅に基づいているため、「平年並」に含まれる値の範囲は旬毎に異なる。

気象表

項目 月・旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
8月下旬	17.8	18.4	△ 0.6	22.9	23.2	△ 0.3	12.9	14.0	△ 1.1
9月上旬	15.5	17.7	△ 2.2	20.6	22.9	△ 2.3	9.8	12.8	△ 3.0
9月中旬	14.6	15.6	△ 1.0	20.7	21.2	△ 0.5	8.8	10.3	△ 1.5

項目 月・旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
8月下旬	7.0	29.0	△ 22.0	40.9	45.2	△ 4.3
9月上旬	39.5	54.9	△ 15.4	47.9	46.0	1.9
9月中旬	28.5	36.1	△ 7.6	57.6	47.4	10.2

注) 1) 観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。
2) 平年値は前10か年間の平均である。



2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

1) 春まき小麦 作況：不良

事由：7月上旬に発生した倒伏と7月中下旬の日照不足による子実の充実不良から、子実重は平年対比83%と少なく、リットル重、千粒重も平年を大きく下回った。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	ハルユタカ			春よ恋		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
子実重(kg/10a)	358	432	△ 74	386	463	△ 77
同上平年比(%)	83	100	△ 17	83	100	△ 17
リットル重(g)	774	816	△ 42	775	818	△ 43
千粒重(g)	34.0	40.8	△ 6.8	35.1	42.4	△ 7.3

注) 平年値は前7か年中、平成14年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

2) とうもろこし 作況：やや不良

事由：9月20日の稈長は平年を16cm上回っている。しかし、本年は7月中下旬の低温により絹糸抽出期が遅れ、その後も気温は8月中旬から9月中旬にかけて平年よりも低温で推移した。そのため、登熟は平年よりやや遅れている。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
稈長(cm) (9月20日)	280	264	16

注) 平年値は前5か年の平均(供試品種を変更したため)。

3) 大豆

作 況：やや不良

事 由：8月下旬～9月中旬の気温が平年よりやや低かったため、登熟は遅れている。主茎長は「トヨコマチ」で平年をやや上回っているものの、「ユキホマレ」は平年を下回っている。主茎節数、分枝数は、両品種とも平年をやや下回り、着莢数もやや少ない。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	トヨコマチ			ユキホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
主茎長(cm) (9月20日)	64.3	62.6	1.7	56.3	62.1	△ 5.8
主茎節数(節) (9月20日)	11.1	11.4	△ 0.3	10.4	11.2	△ 0.8
分枝数(本/株) (9月20日)	4.7	5.5	△ 0.8	4.5	5.0	△ 0.5
着莢数(莢/株) (9月20日)	59.2	63.8	△ 4.6	64.6	68.2	△ 3.6

注) 平年値は前7か年中、平成14年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

4) 小豆

作 況：不良

事 由：8月下旬～9月中旬の気温が平年よりやや低かったため、登熟は遅れている。「サホロショウズ」の平年の成熟期は9月19日であるが、まだ達していない。着莢数は、「サホロショウズ」で前報から大きく回復したが、両品種共に平年を下回っている。主茎長は、「サホロショウズ」で平年をやや上回り、「エリモショウズ」で平年を大きく下回っている。主茎節数、分枝数は、平年並ないし平年をやや下回っている。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)		9.19			9.30	
主茎長(cm) (9月20日)	62.5	59.7	2.8	53.6	68.0	△ 14.4
主茎節数(節) (9月20日)	12.0	12.1	△ 0.1	12.6	13.9	△ 1.3
分枝数(本/株) (9月20日)	3.5	4.3	△ 0.8	2.5	4.4	△ 1.9
着莢数(莢/株) (9月20日)	47.2	54.7	△ 7.5	44.8	51.0	△ 6.2

注1) 平年値は前7か年中、平成15年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

5) 菜豆

作況：平年並

事由：8月下旬～9月上旬の平均気温はやや低かったものの、登熟は順調に進み、成熟期は、「大正金時」で2日、「福勝」で1日遅れに留まった。両品種共に、草丈は平年を上回り、主茎節数、分枝数は平年並である。着莢数は、前報からほぼ変化なく、「大正金時」で平年をやや下回り、「福勝」で平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	大正金時			福勝		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	9. 6	9. 4	2	9. 9	9. 8	1
草丈(cm) (成熟期)	45.6	41.1	4.5	50.5	43.0	7.5
主茎節数(節) (成熟期)	5.3	5.4	△ 0.1	5.2	5.7	△ 0.5
分枝数(本/株) (成熟期)	3.9	4.2	△ 0.3	4.3	4.0	0.3
着莢数(莢/株) (成熟期)	17.7	20.2	△ 2.5	18.2	18.7	△ 0.5

注) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年の平均。

6) ばれいしょ

作況：平年並

事由：「男爵薯」の枯凋期は、平年より7日早い8月26日であったが、塊茎の肥大が順調に進んでいたことから上いも重は平年をやや上回った。でん粉価は、7月以降土壌が湿潤であった影響から平年を下回った。「コナフブキ」は、前報以降塊茎の肥大が順調に進み、上いも重は平年をやや上回っているが、でん粉価が平年を下回っていることからでん粉重は平年比94%に留まっている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯凋期 (月.日)	8.26	9.2	△ 7		10.7	
上いも重(kg/10a) (9月20日)	—	—	—	4672	4479	193
でん粉価(%) (9月20日)	—	—	—	20.2	22.4	△ 2.2
でん粉重(kg/10a) (9月20日)	—	—	—	900	955	△ 55
上いも数(個/株) (収穫時)	12.2	8.9	3.3		9.5	
上いも1個重(g) (収穫時)	81	102	△ 21		115	
上いも重(kg/10a) (収穫時)	4237	4009	228		4873	
同上平年比(%) (収穫時)	106	100	6		100	
でん粉価(%) (収穫時)	13.5	15.6	△ 2.1		22.6	

注) 平年値は前7か年中、平成15年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

7) てんさい

作 況：平年並

事 由：8月下旬以降、日照時間は平年並で、気温は平年よりやや低めに推移したため、地上部の生育は前報に引き続き平年を下回っている。それに伴い地下部の肥大も抑制され、根重は平年を2～8%下回っている。しかし、夜温が低く、降水量も少なく推移したため、根中糖分は平年を9～12ポイント上回っている。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (9月20日)	59.3	66.1	△6.8	54.4	60.2	△5.8	60.4	66.8	△6.4
生葉数(枚) (9月20日)	30.6	30.5	0.1	27.6	30.0	△2.4	27.1	28.6	△1.5
茎葉重 (g/個体) (9月20日)	741	983	△242	709	1045	△336	701	979	△278
根重 (g/個体) (9月20日)	873	890	△17	899	965	△66	692	754	△62
根周(cm) (9月20日)	33.9	33.2	0.7	34.2	35.7	△1.5	30.4	31.2	△0.8
根中糖分(%) (9月20日)	16.31	14.93	1.38	16.82	15.05	1.77	16.13	14.67	1.46

注) 平年値は前7か年中、平成14年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

8) 牧 草 (チモシー)

作 況：不良

事 由：1、2番草の合計乾物収量は平年比75%と低かった(8月報告)。3番草再生時(2番草刈取後25日目：9月1日)の草丈も平年並に留まった。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
草丈(cm)	3番草再生時	42	43	△1
乾物収量(kg/10a)	1+2番草	653	875	△222
同上平年比(%)		75	100	△25

注) 平年値は前7か年中、平成16年(最豊)、平成19年(最凶)を除く5か年の平均。

9) たまねぎ

作 況：やや不良

事 由：「改良オホーツク1号」は平年より6日遅い9月8日に収穫した。平均一球重は平年より重いが、肌腐症が多発(約10%)したことにより総収量は平年並であった。規格内率は平年より5%高く、規格内収量は平年対比で107%であった。「スーパー北もみじ」は8月31日に根切り処理を行い、平年より3日遅い9月17日に収穫した。規格内率は平年より5%高く、平均一球重は平年並であったものの、肌腐症の多発(約10%)により総収量は平年より低かった。規格内収量も平年対比で9%下回った。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯葉期 (月.日)	8.31	8.24	7	9.14	9.9	5
収穫期 (月.日)	9.8	9.2	6	9.17	9.14	3
総収量(kg/10a)	7178	7238	△60	7037	8130	△1093
規格内収量(kg/10a)	6547	6111	436	6224	6807	△583
同上平年比(%)	107	100	7	91	100	△9
規格内率(%)	91	86	5	88	83	5
平均一球重(g)	273	236	37	265	268	△3

注) 平年値は平成15年から平成19年までの5か年の平均(平成20年は暴風雨被害により成績を参考扱いとして除く)。